

東京の生協

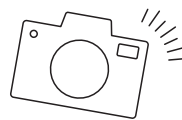


Photo News

東京都生協連
会報

2024
夏号

No.772

東京都生協連第74回通常総会を開催し、 すべての議案が可決承認されました

6月25日(火)午後3時より、東京都生協連第74回通常総会を東京都生協連会館で開催し、全ての議案が可決承認されました。当日は来賓の皆様、代議員、傍聴者、役員、事務局を含め100名を超える参加となりました。



開会のあいさつをする村上会長理事



議長 東京大学消費生協 水口 智子さん (左)
東都生協 奥山 栄一さん (右)



すべての議案が可決承認されました。

東京都生活協同組合連合会

定刻の15時に河田副会長の開会宣言により、第74回通常総会を開始しました。村上会長の開会あいさつの後、東京都生活文化スポーツ局消費生活部部長片岡容子様、日本生活協同組合連合会代表理事会長土屋敏夫様、東京都農業協同組合中央会総務企画部部長小泉安昭様の3名のご来賓の皆さまからご挨拶をいただきました。

秋山専務理事からの3つの議案提案、木村特定監事からの監査報告の後、会員生協の5名の方から、会員生協でのビジョン策定について、日本の農業や生産者を守る取り組み、大学生協と医療生協の経営再生そして能登半島地震の支援活動についてなど、この間の会員生協の諸活動について発言がありました。採決では3つの提案議案の全てが可決承認されました。最後に大信副会長が閉会のあいさつをして、通常総会を終了しました。総会終了後にはレセプションを同会場で開催し、生協の垣根を超えた会員生協間や友誼団体との交流が図られ有意義な時間となりました。

東京都、日本生協連、JA東京中央会から、 来賓のご挨拶をいただきました



東京都生活文化スポーツ局
消費生活部部長 片岡 容子様



日本生活協同組合連合会
代表理事会長 土屋 敏夫様



東京都農業協同組合中央会
総務企画部部長 小泉 安昭様

5人の会員生協の皆さんから事業経営や組合員活動の課題 と展望、能登半島地震をはじめとした被災地支援、そして東 京都生協連への期待など多彩なご発言をいただきました



コープみらい 田中 有希子さん 「ビジョン2035策定について」

これまでの「ビジョン2025」の取り組みをさらに前へ進め、よりよい未来の暮らしを創っていくために、2022年春から組合員・働く仲間が意見を出し合い、考え、新たなビジョンの検討を積み重ねてきました。2年間の検討を経て、組合員と働く仲間がともに掲げる2035年の目指す姿について総代会で決定しました。



生活クラブ事業連合生協連合会 柳下 信宏さん

「国内農業を守り食料自給率の向上に向けて 生協が果たすべき役割」

2024年6月に食料・農業・農村基本法の改正が行われました。この基本法改正に向けて、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会をはじめ6つの生協が協同し、学習活動、政策提言活動を行ってきました。生産者と消費者が直接出会い、対話を続けることでお互いを理解し、信頼関係を作ることで、安全で安心な食料の安定的な供給と消費を作り出してきました。



早稲田大学生協 山口 知子さん

「経営対策の方向性と実践に向けて」

2023年度コロナ以降学生のキャンパスライフの様式が変化し、コロナ前のような状況には戻ってはいない中、授業実施時週への減少、人件費、物件費の高騰とまだ厳しい状況が続いています。2024年度は組合員、大学に生協の経営の実態を知らせ、組合員の意見要望を集めて組合員と一緒に経営改善に向けて具体的に進んでいきます。



東京ふれあい医療生協 百瀬 文也さん

「医療生協を未来につなげる」

医療生協を取り巻く環境変化への適応こそが私たちの組織を未来につなげていくために重要となります。今後10年以内に①医療生協間での組織の質的変革を目指す②経営基盤の強化やDX等による事業運営の刷新③活動の活性化を図り、新しい時代に対応した生協のあり方を追求する3つの重大かつ重要な組織変革を進めていきます。



パルシステム東京 杉村 剛是さん

「能登半島地震支援報告について」

日本生協連からの支援の呼びかけに応え、6名の職員がボランティアに参加してきました。配送支援では被害の大きかった輪島市の中心街は、道路状況が悪く迂回を繰り返しながらの配送でした。支援後半には能登町と輪島市で個人宅を訪れ、割れたガラスや電化製品、瓦やブロック等を撤去し廃棄場まで運ぶ作業を行いました。支援に参加した職員は「あらためて、生協としての強みを実感したこと」「これからも、自分が今できることを考えていくこと」と話しています。これからも能登半島の復興に向けて息の長い支援に取り組んでいきます。



開会宣言をする河田副会長



まとめの報告をする秋山専務理事



閉会のあいさつをする大信副会長

総会後のレセプションでは会員どうしの なごやかな交流の場となりました



能登半島地震支援活動についての現状を伝える
(一社)災害協働サポート東京事務局長の福田理事



会員生協の参加者どうしで事業経営、組合員活動の展開などさまざまな諸課題に向き合いながら、67会員生協とともに協力し合い課題に取り組んでいこうと活気にあふれたレセプションになりました。

お知らせ

今総会で退任された役員

理事	大久保 孝彦さん	八王子保健生活協同組合 前専務理事
	姫田 歩さん	早稲田大学生生活協同組合 前専務理事

今総会で選任された役員

理事	百瀬 文也さん	東京ふれあい医療生活協同組合 専務理事
	山口 知子さん	早稲田大学生生活協同組合 専務理事

会員生協の皆さんから
情報をお寄せいただきました

会員生協の取り組み

パルシステム東京

関東大震災の被害と復興 防災まち歩き 震災からの復興に学ぶ、私たちの防災

4月6日(土)、パルシステム東京主催のまち歩きに組合員14名が参加し、コープ災害ボランティアネットワーク(CO災ボ)の幹事3名と事務局が先導役などで協力しました。

築地本願寺慈光院で東京都立大学の市古太郎先生からミニ講座を受けて出発。横綱公園慰霊堂と復興記念館、NTT職員殉職の碑、中ノ郷信用組合、東駒形教会のコースは、関東大震災の被害と復興に加えて、賀川豊彦の活動を学ぶまち歩きとなりました。



CO災ボ幹事の解説でまち歩き



横綱公園にて

東京ほくと医療生活協同組合

地域を医療で支える 10周年を迎えた王子駅前公園「なんでも相談会」

「病気と高齢で働けなくなった」「家賃が高く生活が苦しい」、相続やご近所トラブルや障がい者、孤立など様々な相談があります。家賃を滞納し自宅からの退去を迫られ、体の不調を訴えながらも受診していない男性は、国民健康保険料の滞納と職が見つからない状況が重なっていました。これまでに相談に来られた方は900人を越え、東京ほくと医療生協の職員、組合員のべ700人が参加しています。

多くの方がおみえになります



親身に相談にのります



芝浦工業大学生協同組合

全国初のハイブリット出席型総代会を開催 各キャンパスの総代の参加・意思表示の機会を保障



大宮会場

豊洲メイン会場



5月24日(金)、全国で初めてハイブリット出席型の総代会が芝浦工業大学生協で開催されました。芝浦工業大学は豊洲と大宮にキャンパスが分かれており、1・2年生は大宮で学んでいます。昨年までの総代会は豊洲キャンパスでの開催で1・2年生が参加しづらい環境でした。今年はメイン会場を豊洲、サブ会場を大宮としてオンラインで結んでの開催となりました。両会場合わせて昨年までの2倍以上の実出席での総代会となりました。よりよい視聴環境を作ることや、運営の方法の改善など次年度以降の改善課題も明らかとなりました。

核兵器廃絶と戦争のない平和な世界をめざして

2024ピースアクションinTOKYO&ピースパレードが開催されました



被爆体験を語る、久保田朋子さん

4月14日(日)、東京ウィメンズプラザホールで開催し、97人が集いました。広島市・長崎市両市長よりビデオメッセージの後、当時8歳で広島に疎開していた時に被爆された久保田朋子さんが登壇され、被爆の瞬間の記憶やその惨劇についてお話しされ「核兵器の恐ろしさ、これからは核兵器のない平和な世の中を保つためには一人ひとりの力が大切です」と訴えました。続いて参加団体・生協による平和の取り組みのリレートーク、最後に平和と核兵器廃絶へのアピール文を読み上げて平和への思いを新たにしました。

その後、新緑の中、ピースパレードを実施して、多くの人々に向けて核兵器廃絶と戦争のない平和の実現を発信する機会となりました。



パレードの先頭の東友会のみなさん



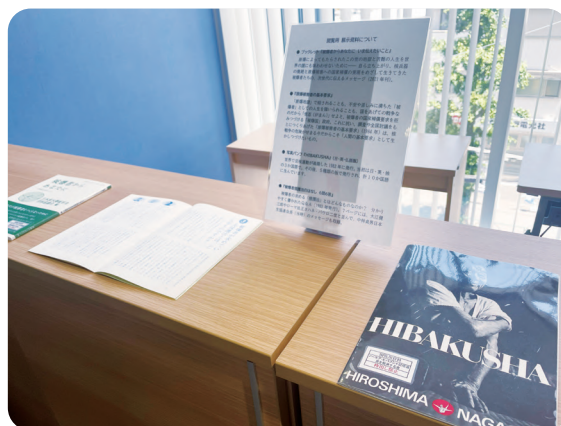
表参道をみんなでパレード

ふたたび被爆者をつくらない

「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」の資料を展示開始しました

今年度「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」の資料を東京都生協連で一時保管することになりました。これに合わせて東京都生協連会館の3階ロビーにて同会が保有する資料を展示して会館利用者の方にご覧いただく場を設けております。

ブックレットやポスター、「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産」の活動の様子などの資料を展示しています。会館にお越しの際は、ぜひ、お立ち寄りください。



(上)メッセージが入っているブックレット

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会のホームページはこちら



(右)実相を伝えるポスター



もっと知りたいフードバンクのこと

第3回都内フードバンク団体と生協の交流会を開催しました



5月23日(木)、都内フードバンク団体と生協の交流会「地域でつながろう♪もっと知りたいフードバンクのこと」をオンラインで開催し、68名(後日視聴16名含む)が参加しました。

前半はフードバンク推進協議会代表理事の米山廣明さんから「生協とフードバンクの福祉的役割」の講演と、フードバンクくにたち・フードバンク立川の2つのフードバンク団体、自然派くらぶ生協・コープみらい・東都生協の3生協から困窮者支援の取り組みについて報告いただきました。後半はグループに分かれて、共にできそうなことを出し合い、地域の中でのつながりづくりに役立つ交流となりました。



(左) 講師の米山廣明さん



東京フードバンクネットワーク登録団体一覧はこちら



(左) 取組報告された皆さん

国際協同組合年(IYC2025)にむけて

第9回東京の協同組合間連絡協議会を開催しました



4月11日(木)に、「第9回東京の協同組合間の協力と連携のあり方を考える連絡協議会」を開催し、連絡協議会を構成する9団体のうち、8団体の代表者を含む16名が参加しました。各団体から協同組合間連携や社会貢献活動について、2023年度活動、2024活動計画の報告があり、連絡協議会としての2024年度活動について協議しました。(一社)日本協同組合連携機構(JCA)から提起されている2025年の国際共同組合年に向けて東京都実行委員会を設立し、広く都民に東京の協同組合が、都民の生活に欠かせないことをアピールしていくことを確認しました。



連絡協議会のホームページはこちら

開会のあいさつをする
東京都生協連
村上会長理事



連絡協議会の様子

協同組合の未来にむけて

協同組合・学びの講座 第Ⅱ期が始まりました

5月31日(金)～6月1日(土)に、「東京の生協・協同組合学びの講座」第Ⅱ期が開講しました。第1講で伊丹謙太郎教授(法政大学大学院公共政策研究科・連帯社会インスティテュート協同組合プログラム)による、「協同組合のアイデンティティを学ぶー協同組合の共通性と相互の違いを知ろうー」と題した講演と(公財)生協総合研究所の研究員の三浦さんとのクロストーク、グループディスカッション。2日目の第2講は「東京の協同組合組織の実践から相互に学ぶクイズを通して自組織と他組織の特徴を考えよう」と題してグループディスカッションと発表を行いました。「業種は違えど方向や大切にす一体感や連帯性を感じた」「これからは様々な協同組合が相互に関連していることを意識しながら業務に取り組んでいける」などの感想が寄せられています。



講師の伊丹さん、三浦さん



(上)クイズに込めた思いを共有中

(左)発見した相違点と共通点を発表



支援の輪が広がっています

東京都生協連能登半島地震支援活動



◎令和6年能登半島地震

被災者支援ボランティア・プログラム

能登半島地震で被災された多くの方への支援として、地域での支え合い・交流の場づくりとしてのサロン活動を実施しました。東京都と東京都社会福祉協議会が主催し、東京都生協連も参加する災害協働サポート東京が全面的に協力しています。人が集まって、互いに支え合ったり、励まし合ったりする場づくりを大切にしています。



ふれあいサロン
9月末までやってます



◎全国の生協の仲間と炊き出し支援に協力しました

6月8日(土)、大阪府生協連の呼びかけによる炊き出し支援活動へ協力しました。

大阪府生協連のほか、福井県生協、コープしが、コープぎふ、わかやま市民生協といった多くの生協の仲間が参加しました。午前の部400食、午後の部400食を提供しました。「生協さん、炊き出ししてくれてありがとう」のあたたかい言葉をいただきました。全国の生協が連携して支援を継続していきます。



腕自慢の生協の仲間たち

